

## 県内企業 人型ロボット活用広がり

# 案内役は ペッパー



信栄食品が「営業部長」として導入したペッパー(松本市)

ソフトバンクグループの人型ロボット「Pepper(ペッパー)」を導入する県内企業が増えている。接客補助や商品PRに活用。目新しさを、話題づくりを狙う。システム会社は、導入企業から本体を動かすのに必要なアプリの開発を受注し、波及効果も出ている。

## システム会社 アプリ受注 波及効果

「あなたにぴったりなキョーザを、僕がすばりご紹介します」。冷凍キョーザ製造の信栄食品(松本市)の本社工場に隣接する直売店では8月から、ペッパー1体が接客補助に活躍している。「営業部長のペッパーです」と音声で名乗り、来店客が近づくと手ぶりを交えて話し始める。客

ス(長野市)に委託した。7

がタッチパネルに触れるのに応じて、商品を提案したり、会社を案内したりする。OEM(相手先ブランドの生産)中心の同社は、展示会や商談会で自社をPRする一助になると考え、昨年12月にペッパーを購入。独自のアプリ開発はシステム開発のロゴ

テルでも活用できるよう検討

中だ。担当者は「インバウンド対応など、ペッパーを通じて接客サービスも実現したい」と話す。八十二銀行(長野市)は2体を導入し、店舗で接客。同行は「業務の説明や処理などへの進化を検討したい」(企画部)としている。

電算(長野市)は2体を技術開発部に「配属」し、採用活動で学生に事業を紹介。地域の小中学校の訪問事業も担い、児童生徒がITを体験する手助けをしている。ペッパーを動かすためのプログラミング体験も実施。導入企業からアプリ開発も受託し、「引き合いが続いている」(経営企画部)という。

ロゴスは、高齢者がレクリエーションを楽しむ介護施設向けのアプリ「まいにちロボット」を開発。6月にソフトバンクが始めたサービス販売サイトに「ロボアプリマーケット」に登録し、これまでに8事業者に販売した。ロボッ

ト開発事業の人員も順次増やしており、若林秀幸社長は「独自アプリを強化し、将来は事業の柱にしたい」と話した。